

## 武漢市の経済状況は回復傾向へ（4月19日）

市統計局によると、武漢市の第1四半期における経済状況は緩やかな回復傾向にあり、完全に底から抜け出したわけではないが、一部の業種及び関連業種では明るい兆しはつきり出ている。関係者によると、総生産額、財政収入、一定規模以上工業増価値（年商500万元以上の企業における日本の売上高総利益にほぼ相当する値）、固定資産投資額、社会消費小売総額などの指数を見てみると、第1四半期の成長は鈍化しているが、去年の同時期に近いが、もしくは上回っており、2けたの成長率を維持している。主要経済指数は全国19か所の准政令市以上の都市の中で順位を保ち続けている。

一部の業種及び関連業種は緩やかな回復傾向にある。企業景気指数は明らかに再上昇している。去年の第4四半期と比べると、工業、不動産指数はそれぞれ6.04%、41.4%上昇している。専門家の分析によると、武漢における産学構造と発展に即した投資と工業生産の選択の集中により、武漢市の経済はいちはやく回復するだろうと言われている。

その根拠としては、武漢市の経済は内需が景気の引き上げ要因となっており、外需の影響はもともと多く受けていなかったために、沿岸部都市に比べると金融危機によるダメージはそれほど大きくない。

また、武漢市の産業構造は第2次産業が多くを占めており、全国及び地方に関わらず依然強い投資先としての行政ニーズがあり、このニーズは武漢市の関連産業の成長を加速させている。現在、武漢市の建材業における上げ幅は31%まで達しており、これは、インフラ需要により引っ張られたものである。

その他には、武漢市のここ10年における工業の累計投資額は2,616億元であり、長年にわたる投資が産業能力の飛躍的な向上効果を生み出している。今年の第1四半期は富士康、南車長江公司、武鋼江北公司などに効果が表れており、新しい成長ポイントとなっている。

## 武漢市の青年ボランティアが20万人に達する（4月17日）

先日開かれた、第2回武漢青年ボランティア協会会議の情報によると、武漢市では現在、青年ボランティア登録数が20万人に達しており、障害者福祉、環境保護など19の分野に分かれ、思いやりと奉仕をテーマに掲げ活動しており、武漢市の新しい顔となっている。

去年、大雪災害の際に、青年ボランティアが「天橋行動」を展開し、歩道橋の除雪を行った。また、3,000名近くのボランティアが漢口駅で足止めをされていた50万名の旅行者のために道案内、荷物運び、お茶出し等を行った。この際に、李長春中央政治局常任委員はボランティアをしている若者を慰問している。

四川大地震の発生後、武漢市から20名の医療青年ボランティアが現場の第一線で活動を行い、武漢12355陽光カウンセラーボランティアチームは四川の罹災地区でカウンセリン

グを行った。武漢にいる青年ボランティアチームは「愛の黄色いリボン」行動として、被災地区から武漢に避難してきた人々に対して援助を行った。

「一人一人のボランティアはみな空に舞うタンポポのようでありたい。困った人々の求めこそタンポポの飛翔力であり、貴方の求めに応じて私は飛んでいく」これは武漢市青年ボランティアの行動理念である。ここ何年かで、「タンポポ式」ボランティアは老人介護、障害者援助、情報サービス、法律支援、心理カウンセラーなどの活動を行っており、また、慈善活動、麻薬撲滅、エイズ防止、生態保護、緊急救助、水難における捜索などにカテゴリーされ、専門的なボランティア活動を行っている。